

室蘭市医師会
登別記念病院

福澤 純

米国でのフェルメールの始まり

JALのTODOFUKENシールや切手収集にはまるとcompletionを目指すようになると思います。日本でも人気のある画家フェルメール（むこうの人はヴィアミーアと発音しているようです）作品鑑賞は作品数が少ないこともあり、多くのファンが「完遂」を目指しています。わたしもその一人です。

二十年以上前に米国ペンシルバニア州の小さな街に住んでいたころ、よくマンハッタンまで出かけていました。せっかく大都会に行っても娘が3歳だったので、ニューヨークフィルなどのコンサートへ行くのは困難で、かわりに美術館巡りをして研究で疲れたところからだを休めていました（?）。

中でもメトロポリタン美術館はお気に入りスポットでした。当時はヴァン・ゴッホ、ルノワールなどに目を奪われ、フェルメールはちらっと観ただけで素通りでした（5作品）。留学中に夏休みでワシントンD.C.に行った際にナショナルギャラリーに行く機会がありましたが、フェルメールの印象はまだまだ薄いものでした（4作品）。

欧州と日本でのフェルメール

帰国後、2006年に西アフリカの4ヵ国を外務省巡回医師団として回った際に経由地のパリでルーヴル美術館に寄った頃から、なんとなくフェルメールを意識するようになってきました（2作品）。その後フェルメール作品を2ヵ月間で「全点踏破」という企画の書籍が出版され⁽¹⁾、これが自分にとってのフェルメール「巡礼の旅」のきっかけとなりました。大学勤務時には接することが多くなり、ベルリン（国立美術館）とフランクフルト（シュテーデル美術館）では鑑賞客が少ないところでゆっくり観ることができました（3作品）。ちょうどその頃（2008年）、上野（東京都美術館）で7作品をそろえた展覧会があり出張の帰りに寄ってみました（個人蔵も含め6作品が初めて観るものでした）。

大学退職後はしばらくフェルメール作品を観る機会がなかったのですが、またも上野（東京都美術館）に2作品が来たフェルメール展（2012年）で、『真珠の耳飾りの少女』を観ることができました（1作品）。さらに、2017年に有給休暇の消化で訪ねたドレスデン（絵画館）では『真珠の首飾りの少女』などに会うことができました（2作品）。2018年には、またまた上野（上野の森美術館）で展覧会があり（初めて見るのは8作品中1作品のみでしたが）、コンプリートするため行ってきました。途中、彼の作品

かどうか判断が難しいオークションで落札されたばかりの作品を観る機会もありました（上野の国立西洋美術館、1作品）。

5日間で12作品

鑑賞作品数が合計25作品になると、全ての作品を観なければと、昨年（2019年）、夏季休暇を利用してオランダ（アムステルダム国立美術館とデン・ハーグのマウリッツハイス美術館の6作品、1作品は貸し出し中：初めて観るのは3作品）、パリ、それとロンドン（ロンドン・ナショナル・ギャラリー、バッキンガム宮殿王室コレクション、ケンウッド・ハウスの3館の全て初めて観る4作品）と、5日間で一挙に12作品を観る機会に恵まれました。

「全点踏破」本ではせっかく行ったのに展示されていないもの（貸し出し中など）がありましたが、幸い、私の場合はかなり効率的にフェルメール作品に会えることができました。

(FYI: 貸し出し中の作品が分かるEssential Vermeerというインターネットサイトの情報⁽²⁾を利用したのがよかったようです)

まだ観ぬ5作品

残る作品はウィーン（美術史美術館）の1作品、そして、しばらく行っていない米国ニューヨークのフリック・コレクション門外不出の3作品（米国にいたときに行かなかったことを後悔しています）の4作品となりました。

そして、現在盗難に遭い行方不明のボストン（イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館）の1作品がいつか発見され、足腰が丈夫で生きているうちに観るということができれば、「全点踏破」の夢はかなえられます。

ちなみに本投稿のタイトルは分母が彼の全作品数、分子は自分が鑑賞できたもの、そのうち写真撮影できた作品数を（ ）内で示しています（日本開催の展覧会とバッキンガム宮殿では写真撮影は認められていませんでした）。

参考

- (1) 朽木ゆり子 「フェルメール全点踏破の旅」 集英社新書ヴィジュアル版(2006年) 集英社 東京
- (2) http://www.essentialvermeer.com/vermeer_events.html (cited March 20, 2020)

